



トピックス

2022年10月11日

ブラジルの経済と政治：レアルは上昇、日本円は下落

レアル高・円安

日本や英国など、いわゆる「先進国」の通貨価値が下がる一方、「新興国」の中では今年、それが上がっている国もあります。特に際立っているのは、経済・人口規模で南米最大の国、ブラジルです(図表1)。

過去を見ると、ブラジルの通貨レアルは、しばしば急落を余儀なくされました。大幅な財政赤字や高インフレなどによる経済不安、縁故主義や賄賂が横行する政治の腐敗などが、金融市場などで嫌気されたのです。今年のレアル高は、ブラジルの経済・政治情勢の好転を表しているように見えるかもしれません。

経済は一旦好転

ブラジルは、農産物(大豆など)や資源(原油など)の輸出において、世界有数の大国です。これらの相場が、今年前半に高騰しました。それによる輸出額増などで、今年は底堅い経済成長が見込まれます。

インフレ率も足元、低下傾向です。ブラジル中央銀行が昨年3月、利上げを開始したことの効果などによるものです。こうした果敢な利上げは、中央銀行への信認を高め、通貨高に寄与しています。この点は、頑なに利上げを拒む中央銀行の政策などが自国通貨の価値を下げている国、つまり日本とは対照的です。

格差と政治腐敗

ただし、ブラジルの社会情勢は、明るいとは言えません。大規模農家などが潤う一方、空腹に苦しむ人が多数存在するのです。農業大国における空腹まん延という不条理な事態は、分配政策の失敗を表します。

政治や文化では、左派(リベラル)と右派(保守)が対立しています(ただ、ブラジルでは多党が並存し(図表2)、分断の深さは二大政党制の米国ほどではない)。また政治の腐敗も、依然深刻です(ただ、身内を要職につける縁故主義や、政治と産業界などとの不透明な関係については、「先進国」でもあること)。

左右両派の対決

10月2日、大統領選挙の第1回投票が行われました(図表3)。その結果、誰も50%超の得票率に届かなかったため、上位2名(ルラ氏とボルソナロ現大統領)が、10月30日の決選投票で勝敗を決めます。

双方とも、強い個性を持ち、支持層は熱心です。しかし、2003~2011年に大統領だったルラ氏は、自由な市場よりも国家の役割を重視するなど、かなりの左派傾向です。他方、右派のボルソナロ氏は、極端な発言(「コロナウイルスは単なる風邪」等々)、森林破壊助長、息子重用などにより悪名をはせています。

決選投票の行方

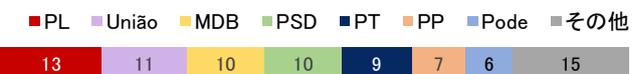
現時点では、ルラ氏が勝利し、大統領となる可能性が高そうです。とはいえ第1回投票では、予想されたほどの差はつきませんでした。そのため、ボルソナロ氏が勢いを増し、再選を果たす可能性もあります。

とはいえ、どちらが勝利しても、金融市場は冷静に反応しそうです。議会、裁判所、中央銀行、メディアなどが大統領の独断的な策をけん制する、と考えられるからです。そうしたバランス機能が働く点では、ブラジルは先進国的かもしれません。そのように考えても、レアル高、円安は自然な動きだと言えます。

図表1. ブラジルと日本の通貨価値 (対米ドル、2022年 年初=100)



図表2. ブラジル上院選挙の結果(議席数)



図表3. ブラジル大統領選挙(第1回投票)の結果(得票率)



(注)上院選挙、大統領選挙とも2022年10月2日実施 (出所)Tribunal Superior Eleitoral, Valorよりデータを取得し、しんきん投信作成

(チーフエコノミスト 辻 佳人)



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。